

■部会名：地域産業部会

■部会長（有識者委員）：河西 邦人 委員

■市民委員：島本 和夫 委員、志水 有希 委員、前後 稔 委員、  
寺岡 秀一 委員、寺田 外治 委員、峯田 智也 委員

■概要

## 1 戦略テーマの設定について

**河西部会長**：前回の部会で、『6次産業の推進』と『地域流通のネットワーク化』と『観光資源のネットワーク化』の3つに戦略テーマをまとめるという話をしていたが、議論してきた中で「情報」に関する意見が多かったこと、また他の部会でも江別市の情報発信について意見が出ていたので、敢えて『江別市の情報戦略』という戦略テーマを1つ追加した。江別市にある様々な事業者等のデータベースが必要ではないかという意見があり、その情報収集から活用までの意見が出ていたので、地域産業部会から戦略テーマとして出しておいて、他の部会で出てきた情報に関する内容も含めてここでまとめるのが良いのではないかと考えている。

## 2 提言書（たたき台）についての議論

### [戦略テーマ：6次産業の推進]

- これからの江別市は都市型農業ではないか。単価の高い高級野菜に特化して、担い手を増やしていく必要がある。また、立案データを見ると農業従事者が予想以上に少ないが、農業を基点とした6次産業化で産業を振興していくというのは現実性があるのだろうか。農業を主とするのではなく、他の産業と絡めて農業もその一部と考えた方がよいのではないか。
- 農業の話が多く出てくるが、データを見てわかるように農業従事者や農業生産額は全道的にみると少ないのではないか。その一方で、市内には工業団地があり、中小企業もたくさんあって、商工業に関わっている人がたくさんいる。地域産業部会なのだから、地域の産業を活性化させるというのが本来の目的であり、既存の江別市の地域産業をどうやって伸ばしていくか、あるいは色々な資源を分析して、その資源に携わるような新しいビジネスや企業を起こしたり、誘致したりするために、今後10年間どのように取り組んでいくかを今まで議論してきた。6次産業の推進はわかりやすいが、農業が江別より盛んなところは他にもあり、江別産のものを材料にしなければならないわけでもないことから、江別の地域産業を発展させることになるとは思えない。戦略テーマの中で市内の中小企業の振興策について一切触れていないのは、地域産業部会としては違和感があるのではないか。地元の企業をどう伸ばしていくかという切り

口での議論も必要である。

- 工業団地協同組合のお祭りがあるという話を聞いた。色々な企業があり危機感を持ってPR等に取り組んでいるようで、この部会のテーマと同じようなことに取り組んでいるようである。

**河西部会長：**これまでの議論では農業についての意見が多かったことから、そこを基軸とした6次産業の推進を戦略テーマとすることになった。たしかに中小企業振興というのはとても根幹的なところであるが、中小企業振興についての直接的な意見はほとんど出てきていなかった。

- これまでの議論でも中小企業・大企業問わず、産業に関わるものすべてに関連する話をしてきたつもりである。観光にしてもそうだし、農業の6次産業化にしても販売・加工のプロセスに関わるビジネスをしている人にも関係する話である。地域産業部会であるから、すべての話が中小企業振興を前提にした議論だと思っていたが、違うのか。6次産業は1次産業が基軸であり、1次産業のパイが小さければ、2次・3次に展開しても小さな効果しかないが、6次産業の推進という方向でよいのか。農業ばかり取り上げるのが悪いということではなく、農業も一つもビジネスの材料になるものであるが、農産物だけではなく、企業の製品など江別にはもっと色々なものが材料としてあるので、それを材料としたビジネスということも考えられるのではないかとということ。

**河西部会長：**江別の農業というのは、他市と比較してそれほど生産額等の割合が大きいわけではないため、そこを基軸とした6次産業化というのは無理があり、むしろ江別で活動している企業そのものに焦点を当てた政策を戦略テーマとして選ぶべきであるという意見がお二人の委員から出た。他の委員はどうお考えか。

- 地域産業部会という名前であるから、それに沿って地域に密着した中で江別に何が欠けているかを考えて、できることから始めるという視点で考えてはどうか。
- フード特区に指定されたということから、農業を基軸にするという議論の流れになったが、市内にある企業で道内他市とは違う取り組みをしている企業を掘り起こして伸ばしていくという戦略の方がより現実的ではないか。農業は江別市の強みとは言えないので、農業だけに限定しない方向に戦略を変えた方が良いのではないか。
- フード特区を活用しないよりは活用した方がよいが、農業に特化しすぎではないか。

**河西部会長：**では、これまであまり意見の出ていなかった企業の振興策について改めてみなさんと議論し、新たな戦略テーマを設定する。『6次産業の推進』として作成した戦略テーマはどう扱うか。

- 『6次産業の推進』の戦略テーマも残しておいてよいのではないか。

#### **[企業振興策としての新たな戦略テーマ：江別企業の活性化支援]**

- 前回の部会で出ていた、企業の情報を収集してデータベースをつくるということがまず重要である。

- 予算の面もあるが、交通アクセスを向上させて商店街を活性化するため、商店街へのバスの巡回を検討してはどうか。観光の側面で市内の名所をバスで巡回することも考えてはどうか。
- ユニークな発想の企業を伸ばしていくことが必要。大学生などの発想も取り入れると良い。
- 市外から江別市内への通勤者も多いので、江別市に定住してもらえるような魅力のある企業をつくる必要がある。
- 総合的な視野のある江別ならではの企業が必要。
- 新たに企業に投資して活性化するよりも、既存の様々な企業を活用すべき。各業界団体が独自に取り組んでいることはたくさんあるが、それらを融合させる必要がある。
- 江別市民が札幌でなく市内に通勤できるように、雇用の安定が必要。
- 屯田兵など過去の歴史・遺産を活用する。
- 企業のPRが不足している。市民に伝われば市民が宣伝することもできる。
- 元気なうちはいつまでも働けるような、高齢化社会に対応した企業が必要。
- 経済団体の支援が必要。江別市にはロータリークラブやライオンズクラブ、青年会議所、同友会、工業団地組合、商工会議所など様々な団体があるが、目標は同じで地域経済・企業の活性化を目指しているにもかかわらず、それぞれが個別に取り組んでおり連携がとれていない。それらの団体を繋げる役割を行政に担ってもらいたい。
- 中小企業同友会というものがあるが、所属している会員同士でも地元どんな企業があってもどんな商売をしているかといったことがわかっていないことが多い。企業同士の協力で新たなビジネスをつくっていくために、地域企業同士のマッチングが必要。
- 大学生だけでなく、市内に失業者がたくさんいるが、地元企業の求人に対しては情報が伝わっていないため人が来ないので、地域企業と求職者のマッチングが必要。
- 江別には大きなオフィスビルが非常に少ないが、小さい会社で需要があることから、低家賃で利用しやすいオフィスビルが必要。
- 今あるインキュベーション施設は規模が小さく使い勝手が悪いので、起業を促進し、若い企業を育てるためにもっと施設を充実させるべき。
- 小さな規模の施設はたくさんあるが、大規模なイベント施設がない。
- 札幌のベッドタウンでありながら、札幌への通勤者に対する支援がない。サテライトオフィスをつくることで移動時間のロスを減らすことができ、新しいビジネスの展開も考えられる。
- 市外・道外へ目を向けることも必要。江別スイーツや農産物など良いものがたくさんあるが、市内ですらあまり知られていない。市外・道外での催事などに参加するためのサポートを何か行政でできないか。すでにやっている部分もあるようだがもっと力を入れて、生活に一番身近な食べるものをきっかけに江別を売り込んでいってはどうか。
- 道外や海外への企業説明会に参画するための支援をしてはどうか。海外の優秀な人材

に市内企業をPRし、良い意味で企業にプレッシャーを与えることもできる。

- 学生や一般市民を対象に企業体験をしてもらい、企業のPRと求職者とのマッチングにつなげてはどうか。
- 市の支援策はすでにたくさんあるが、中小零細企業はそこから必要なものを選択することが難しい。札幌では中小企業支援センターというものがあり、担当が支援策や融資制度をコーディネートしてくれる。そういうワンストップの支援体制が必要。
- 中小企業振興条例をつくって、条例に基づいて様々な支援制度等を再整理し、総合計画で方向性を示しながら地元企業の振興を担保していく必要がある。
- 広報の誌面に企業向けの支援策等の情報を載せてはどうか。

**河西部会長**：議論を整理すると、まず中小企業振興条例を策定して意思統一をはかるとともに、これからの取り組みの推進を担保する。その上で取り組みの1番目としては、江別市内にどのような企業があってどのような事業・商材を持っているかをきちっと情報収集してデータベースをつくり、そのデータベースを市内あるいは市外・道外の人たちが活用して実際の取引につなげていく。2番目としては、様々な支援制度があるが使いにくいので、江別市や商工会議所が一体となってワンストップで地元の企業を支援していく。3番目としては、団体と企業のネットワークを再構築する。企業同士、経済団体同士などが集まって今後の産業政策の検討や、協力による新しいビジネスを考えることができるようにネットワークの再構築をはかる。4番目としては、マーケティング支援ということで、たとえば道内外の物産展に江別ブランドを売り込むために支援したり、商店街への集客のために巡回バスを走らせたり、優れた企業を海外に売り込んでいくなどのマーケティング支援を行う。また、新たな商品開発の際の支援も必要である。5番目として、財政との兼ね合いもあるが、新しい企業が市内でビジネスをする基盤としてオフィスビルやインキュベーション施設を整備し、企業を集積して効率的に支援し、そこにコンベンションホールのようなものも付属させる。

このような流れで『江別企業の活性化支援』という戦略テーマをまとめることにする。戦略テーマ提言として文章化したものを次回の部会でみなさんに提示し、また議論していただくことにする。

#### **[戦略テーマ：地域流通のネットワーク化]**

- 部会での議論は、高齢化に向けて買い物難民対策をどうするかという観点から、地域の物流ネットワークを構築するという話になった。物流センターをつくるという話になると事業が大きくなり過ぎてしまうのではないかと。物流センターや工業団地といった話よりも、まず買い物難民対策をどうするかに焦点を当てた方がよいのでは。
- 小さな商店を活性化させるためにも、地域の物流ネットワークを構築して商店同士をつないでいくという話もあったと思うが。

- それらの点については、スマート・ロジスティックスのところに記載されているのではないか。短期でどのように取り組むか行政の仲立ちで試行して、中期で事業者の組織化と協働体制の構築支援をし、長期で福祉事業との連携も図って実践していく、という記載の部分がまさに部会での買い物難民対策や小規模な商店の活性化の議論の部分ではないか。

**河西部会長：**地域内のスマート・ロジスティックスと呼ばれる物流に関しては、まだ成功事例が無いためリスクもあるが、江別の一つの買い物難民として地元商店・農業者等をネットワーク化して、地域の中で経済をまわしつつ、環境への負荷も低減するという実験的試みである。分かりやすくなるようにスマート・ロジスティックスの注釈を加えておく。

### **[戦略テーマ：江別市の情報戦略]**

**河西部会長：**江別には良いものがたくさんあるが、情報発信がうまく出来ていないという意見がでていたため、『江別市の情報戦略』というテーマを立てた。これはこの部会だけではなく、他の部会も含めた課題である。ただ、この部会としては主に江別市内の企業・事業所のデータベースをつくって、それを活用できる環境をつくり上げるということ、もう1つは江別ブランドを含めて情報発信にどのように取り組んでいくか、という大きく分けて2つの方向性を持った戦略としてある。

- 情報を収集して作成したデータベースをどのように最新の状態で維持管理していくかが最も重要である。また、最新の状態であるということは何らかの形で行政が担保することが信用につながる。それが地域にとって大事な資産だということを市民に理解してもらうことも必要である。
- データベースは産業振興に関わる企業情報だけに限定したものを想定しているのか。産業に限定しないとすると、情報量が膨大で漠然としてしまうのではないか。
- 様々なデータをすべてまとめて一つのデータベースで管理するということが重要で、どう活用するかは次の話である。
- 活用の方が重要ではないか。データ自体は既にあるので、それをどうやって活用するか仕組みづくりが問題ではないか。
- 活用の仕方はたくさんあり、現在も様々な取り組みが行われているが、いつもネックになるのはデータである。データベースの信ぴょう性や新鮮度、メンテナンス、コストやセキュリティーの問題などがある。そのデータを誰が管理・保全していくかということは、地域の資産としてとても重要な問題である。

**河西部会長：**情報に関する問題意識はこの部会だけでなく、他の部会でも出ていることから、データベースをつくるなら産業以外の情報も入れる、ということになるかもしれない。現時点では他の部会からの意見は一切聞いていないため、中期のソフトに記載してあるとおり、市民向け広報とか対産業向け情報提供という

ことにしてある。

情報を収集してきちんとメンテナンスし、最新の情報にアップデートしていくことの重要性と、それが宝の持ち腐れにならないようにうまく活用していく、ということについて意見が出た。『江別市の情報戦略』を戦略テーマとして選び、今みなさんから出た意見を踏まえて内容を細かく記載していくことにする。

**[戦略テーマ：観光資源のネットワーク化]**

**河西部会長：**『観光資源のネットワーク化』については次回議論する。